

## コロナ禍での東京学連稽古会に参加して

慶大剣道部OB（昭和40年卒）

森川 功

2年ぶりに皆様と嬉しい再会ができ東京武道館という申し分ない広いスペースにて伸び伸びと剣を交えることができ大変愉快でした。学連関係者の皆様、当日の運営に協力された学生諸君、ありがとうございました。

元々の技倆不足と新コロナ流行による長期の稽古不足で不安を感じながらの回し稽古でしたが、お陰様で最後までなんとか元に立てました。来春3月80歳を迎える我が身には、良い記念となりました。コロナの機嫌を窺い乍ら地元小学校の体育館を借りての小学生と父兄を対象にした剣道教室で稽古お手伝いをして、体を動かしてきた甲斐がありました。

学連関係で今回のコロナ禍で考えたことの一つは、昨年春に大学を卒業した各大学剣道部4年生のことです。3年間の稽古と部活動を経て身につけたもので、4年生としてリーダーシップを振るい諸大会に向けて自身と全部員が情熱を燃やすという体験で、学生生活を締め括ることできなかった彼らの無念です。二つ目は、職務のため日本から海外に永住、駐在又は長期出張をするかたわら、駐在国にて剣道指導に情熱を傾けている邦人及びその指導を受けている現地若者達の、国際大会で腕試しする機会を持てなくなった無念です。

私が学生時代の1962年頃、関東学生剣道連盟主催の大会の閉会挨拶で、宮田正男会長が「諸君は将来、剣道の海外での普及にも貢献して欲しい」と言われていました。そして、私の商社勤務経験では特に1990年前後からの全剣連や諸先生の努力下、剣道の国際化は既に現実のものとなっており、それに協力されている数多くの方が学生剣道出身の人々です。海外での剣道もコロナ禍による影響は大きいはずです。

私は60歳半ばに入ってから東京学連の稽古に参加させて頂いていますが、日韓学生間やOB間の剣道交流への協力、在日／来日の外国人剣士達の稽古受入れや交流への配慮に敬意を抱いています。新コロナやオミクロン株流行の早期終息を、つよく念じつつ。